第14回 水の都とやま取材の旅

特別企画

参加記者・カメラマンによる座談会

「水の都とやまを語る」

★「水の都とやま取材の旅」とは…

幣誌発行人中村孝一が企画し、1996年より毎年開催している「富山合同取材会」である。全国の情報誌を毎回10誌招待し、富山市中心部をメインに観光スポットをガイドし、各誌(紙)の記者並びにカメラマンに取材してもらい、各メディアにて富山の魅力を紹介してもらう企画である。本企画は今年で14回目を迎えた。今回で通算87誌、延べ163誌に参加頂いた。

※今回の主な取材箇所

- ・富山第一ホテル
- ・富山観光遊覧船
- ・富山市郷土博物館
- ・月世界本舗
- ・梅かまミュージアムU-mei館
- ・池田屋安兵衛商店
- ・中央通り、総曲輪通り
- ・いきいきKAN
- ・ますのすし せきの屋
- ・富山城、県庁、市庁舎

出席者

五十音順・敬称略

司会／中村孝一
(月刊グッドラックとやま発行人)

月刊オレイユ
(岐阜県)
安藤 紀夫

月刊オレイユ
(岐阜県)
岩田 多佳晋

月刊武州路
(埼玉県)
桑原 良子

月刊日本橋
(東京都)
齋藤加代子

月刊いちかわ
(千葉県)
柴山 慶太

月刊武州路
(埼玉県)
角田 博史

月刊みと
(茨城県)
福田 靖子

月刊おとなりさん
(東京都)
三石 健史

おとな日
(福井県)
宮澤 佳代

シティライフ
(大阪府)
村上 真紀

Asahi First
(東京都)
元田 肇

月刊プレス
(岐阜県)
森下 香絵

月刊プレス
(岐阜県)
森瀬 なつみ

中村：取材の旅、2日間、皆様大変お疲れさまでした。この取材会の感想も含め、タイトルである「水の都とやま」について感じたままを語って頂ければと思います。

安藤：今回初めて富山市に訪れてみて、いくつか岐阜市との共通点を感じ取る事ができました。それは市電であったり、街の雰囲気・空気感。岐阜市との違いを考えた時に、岐阜県そのものに海が無いですから、まずそこが大きく違っていて、**そして本当に驚いたのは県庁所在地である富山市の街のど真ん中に、自然豊かな川が流れていて、そこを観光遊覧船が走っているということ。こういう文化は岐阜には無いですからね。衝撃でした。しかも、川の両岸は桜並木ということで、今の新緑もとてもきれいだと思いましたが、毎年桜の季節には大変な人出で賑わうと**

聞き、ぜひその時期に来て自分の目で見てみたいなと思いました。

柴山：水がきれいな「水の都」という風に伺いましたけれども、**空気も大変清々しい**感じがしました。それと**街全体がとても清潔だと感じました。**僕が住んでいる市川はとてもゴミゴミしているので、余計そういうところを感じたのかもしれませんけれどね。とても気持ち良く2日間過ごせたなと思います。**こういう清々しさを感じられるっていうことが富山を旅する醍醐味**なんでしょうね。

桑原：松川っていうのは写真やテレビでは観ていたんですが、雨のあとだったのでちょっと川が濁っていたんですが、ほんとにい〜い雰囲気で、緑がいっぱいあって、道路が広くてね、こういうのは埼玉には無い。本当にキレイな街、という印象を受けましたよ。井戸の美味しいお水を現在も飲んでいらっしゃる家庭があるということで、それも納得ですね。**富山はとても恵まれた環境だと思いますよ。山と海に囲まれていて、街の中心部に緑いっぱいの川が流れている**わけですからね。**生のお魚を買って帰れるというお土産スポットが無いのが残念でしたね。こんなに新鮮で美味しいお魚が食べられる県なのに、金沢でいうと近江町市場みたいな場所が中心部や駅前にあってもいいんじゃないでしょうか。そうするとさらに水の都が盛り上がると思うんですけれどね。観光客は富山といえば「美味しい魚」が頂ける、買えると思って来ると思いますよ。観光客の♡をつかんでほしいかな(笑)。**

角田：富山は過去に5、6回来ているのですが、来るたびに思うんですけどね、北アルプス、立山連峰というものすごい日本の代表的な山岳、そして背後に海ですね、日本海、**山と海、どちらもすばらしいものをロケーションとして抱えている街**なんですね。ですから、山と海に挟まれている。埼玉にはないものなんです。埼玉は山はありますけれど、秩父・奥秩父くらいでそんなにスケールの大きなものではないですし、そして海は全然無いということで、とても羨ましいなと思います。**水の都というだけあって、街のど真ん中に松川が流れていて、そこを船が通っている。こんなすばらしい観光資源っていうのはなかなか無い。**埼玉県に行けば長瀞ライン下りといって急流を下るのがありますけれども、あれは田舎でやるものですからね、大都会の真ん中じゃないんですよ。**松川は街のど真ん中で遊覧が楽しめるわけですから。**それから街の規模です。実は、42万人の人口だっていうのを聞いて、あ、それしかいないの？っていう印象だったんですね。富山市展望塔から街の広がり方を見た時、埼玉だったらこの広がりっていうのは100万人近い街の広がりじゃないかなと思いました。この広がりで42万人しかいないってことは、富山市っての

は1軒1軒の敷地が広いのかなってことを考えたりしました。そういった**富山の魅力っていうのは沢山あると思いましたよ。**

三石：富山県庁に行って、建物のお話を伺った時、富山が大空襲にあって、県庁と2、3の建物しか残らなかったという話を聞いて、富山で大規模な空襲があったということを全然知らなかったですし、今回、飛行機で富山に来たわけですが、**初めて富山に来てみて、こんなに短時間で東京から富山に来れるということも知らなかった**んです。**現在、富山のほうでは観光に力を入れていらっしゃるとのことですが、まだまだ知らない人が多い。**我々メディアがそういうことを知らせていけたらなと思いますし、バスで市街地を走っていて思ったんですが、中心地の割に「テナント募集」の張り紙

サクラパックス(株)

が多くて、池田屋安兵衛商店の池田社長もおっしゃっていましたが、**これだけ魅力溢れる街なのでドーナツ化が解消されるような、そういう活気のある富山になってほしいと思いました。**

角田：ドーナツ化は富山だけの問題じゃないからね。どこも同じ課題を抱えてるね。

元田：富山に来る前の印象っていうのが、「山のほう」、大自然豊かな富山っていうイメージがあったんですけれども、あともう一つは、東京からだと距離があるなぁという印象。実際、ＪＲで来たので、やっぱり距離はあるなぁと感じたんですが、これが三石さんがおっしゃったように飛行機だと印象は変わってくるんでしょうね。1時間で着きますから。しかし、ＪＲで来て時間がかかるにせよ、**1回来てもらえると、その後何度も何度も足しげく通う方が出てくるくらい魅力ある所なんじゃないかなと思いました。県庁所在地に自然が溢れているというのがすごく意外でした**し、東京でみる**コンクリートで造られた川ではなくて、自然に囲まれた、自然の川っていうのが中心地に広がっている**というのは、その魅力を都会の方や、別の地方に住んでいる方にどんどん知って頂いて、訪れて頂けるような所になっていってもらいたいなと思いました。

岩田：岐阜も富山も人口だいたい同じくらいですので、お隣というのもあって、ものすごく似ているところがありました。ですが、埼玉もそうですが、岐阜は海がないので、**海があるからこそ出来る文化というのが岐阜にはないので、すごく羨ましいなと思いました。**空き店舗やテナント募集は岐阜のほうが進んでいると思います(笑)。富山大和さんではお客さんいっぱいいましたし、接客している店員さんのイキイキした感じも、ちょっと岐阜にはだいぶんなくなりつつあるような光景だったので(笑)、すごくいいなぁと思いました。まぁ地方でしたらだいたい同じような問題を抱えているんだと思いますが。**富山は中心部に自然豊かな川が流れていて、かつ遊覧船まで運航して22年になるとのことなので、これを最大限活かして、中心部の宝だと思うので、なんとか街の活性化を頑張って頂けたらいいなぁと思いました。**

森下：富山は高山の人にとっては、比較的馴染みがあるというか、距離も近いので来られる方多いと思うんですけれども、どちらかというとこう海のイメージがすごく強くて、「水」というと「海」というのがあったんですけれども、今回は川ですね、**クルージングだとか川にまつわるお話だとかいろいろ伺って、またちょっと違う富山の一面が見えた**感じです。**四季いろいろ通していろんな情景があるんじゃないかなというのがすごく想像できた**ので、また違う季節に訪れてみたいなぁという気もしました。

森瀬：私は古川に住んでいるので、富山に来る機会が多くて、でも買い物が主だったので、こういった観光を中心とした回り方というのがたぶん初めてだったと思うんです。いろんな歴史を見る事ができたし、**こういう川があるってことは知っていたけど、そこを船に乗って行けるってことは知らなかった**ので、船に乗って、ディナークルーズも体験して、初めての体験ができて非常に楽しかったしおもしろかったです。

宮澤：私は生まれが富山で、祖父母が射水市にいて、結構よく富山には来てたのですが、富山市をこんなにゆっくり見たのは初めてで、最初「東洋のベニス」っていう案内を頂いた時に、会社の皆でこれは言い過ぎじゃないかって言って来たんですが(笑)、**街中にすごく水があふれていて、すごく美しいなと思いました。**街がすごくゆったりしていて、私のイメージっていうのは富山っていうのはすごくのんびりしているなぁというイメージだったんですが、街の

造りからも人の気性が作られていくのかなぁという印象です。北陸は真ん中に石川県という、観光PRの上手な県があって、なかなか福井と富山というのは埋もれてしまっている感じがありますが、お互いいい観光資源があると思うので、上手にPRしていけたらいいなと思いますね。

齋藤：今回大きく感動したことの一つは、日本海の美味しい海産物と、松川の遊覧船なんですけれども、日本橋にも川が、日本橋川が流れていますし、遊覧船も出たりするんですけれども、日本橋は橋の上に高速道路がかかっていて、全く今回みた眺めとは正反対のものなんですけれども、松川には青さぎや鴨もいてすごく自然も溢れていて、そういったところを今回伝えられたらいいなと思いましたし、薬売りなど、**歴史のある文化も受け継ぎながら、富山市全体が都市としての機能も充分兼ね備えている**なと思いました。

福田：今回私は富山が初めてでした。やっぱり遊覧船がすごいなぁと思いまして、一応茨城には潮来市というのがあって、船に乗って川から海へ出て行くというのがあるんですけれども、水戸から行くと離れているのであまり親しみがないんですね。遊覧船というものについてはそういう感覚しかない私なんですが、松川の遊覧船に乗ってみて感じたのは、**橋が一つ一つ、素材やデザインが違っているのが、説明を受けながら見るとすごいなぁと思いました。**茨城にも海はありますが、富山の魚介類の美味しさを改めて感じました。

村上：富山は大阪からはそんなに遠いとは思ってないんですが、あまり来た事がなくて、このゴールデンウィークに来たんですが、まさか月に2回富山に来る事になるとは思っていなかったんですが（笑）、水が美味しいと食べ物も美味しいんやなぁと感じました。季節の違う時に桜の時や、真冬の時にも来てみたいと思いましたし、文化や歴史も取材できましたけど、**普通に富山ファンみたいな感じで季節ごとに来たいなぁと思いました。**

中村：県外の皆さんの目から、そしてメディアに携わっている感性豊かで表現力豊かな皆さんの、富山に対する感想をお聞きすることができて良かったです。ありがとうございました！素晴らしい記事を期待しておりますので、頑張って下さい。楽しみにしています。GL